

障がいのある学生への学修支援のあり方を考える

参加者アンケート

当日参加者数：58名 アンケート提出数：38件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・他大学の事例をご紹介いただき、大変ためになりました。テキストデータ化については、国会図書館に全文の情報を提供しなければいけないこともあり、アルバイト(学生)という話も出ていた(しょうがい学生支援室では既にやっている)ので、他大学の事例も調べつつ、改めて検討したいと思いました。視覚しょうがい以外に、LDの学生に向けてもテキスト化は意味があるのだということを再確認できたため、ひきつづき支援室と連携していきたいと思いました。また、LDの方向けのスケールは、本学でも導入できないか、持ち帰ろうと思います。
- ・「合理的配慮」の考え方。個別サポートという印象だったが、「障壁の除去」という考え方であればできることも増えるように感じた。
- ・特別なオプションサービスではなく、スタンダードと認識すべき、ということ。その個人へのサービスではなく、全体の権利としてあるべき姿と認識すべき、ということ。読書バリアフリー法について、不勉強でしたのでこの機会に学ばせて頂きました。
- ・法的な根拠に加え、具体的な事例の詳細がわかり、大変参考になりました。今後、必要になってくるのは、人的な育成、研修と大学全体(社会全体)の理解かと思いました。
- ・ボランティアの地域の人材活用。
- ・「合理的配慮」の意味することがよく理解できました。また、だいがくとして、取りくむべきことが分かりました。
- ・合理的配慮の基本的な考え方、具体的な支援体制の事例。
- ・3～5年後に支援を要する学生の増加が明らかである、という事実を肝に銘じ準備したいと思います。
- ・大学図書館の役割や障害学生支援室との連携等について知ることができて良かった。
- ・障害(学生)者に無料で郵送による貸出ができる(方法)があること・・・新しい発見  
テキストデータ化の際の人の養成 OCR 作業のイメージ 障がい者雇用機会の可能性。
- ・「合理的配慮」の考え方について改めての認識となった。図書館の一層の充実、活用の必要性。
- ・「合理的配慮」のとらえ方。(配慮=accommodation だけでなく、個人的には「合理的」が rational ではないことも興味深かった)
- ・大学での対応の範囲を越えるものが多くあり、そこへの対応の難しさ。
- ・障がい学生支援のこと、よくわかりました。図書館でのサポート体制のことも初めて知ることが多かったのもよかったです。
- ・読書バリアフリー法の中身についてよくわかりました。京都大学の先進事例を知ることができました。
- ・合理的配慮、大学図書館におけるサービスについて同時に、かみくだいた話を聞く機会がなかったので大変有難かった。支援担当部局と図書館とどちらが中心となって支援していくかなど、双方の立場から色々考え検討・協力していかなければならないと実感した。
- ・読バリ法という通称をおぼえました。読書補助具や情報支援機器は知りませんでした。

(次ページに続く)

- ・読書バリアフリー法 読書補助具、情報支援機器  
意思表明への働きかけとして、学生・保護者に、合理的配慮への理解を深めるためのオンラインセミナーを顔を合わせないで行う取り組み。
  - ・法的側面がよくわかりました。
  - ・合理的配慮の構成要素やルール化。
  - ・すべてが新しい知見だったので大変参考になった。
  - ・障害者の支援は、オプションのサービスではなく、コンプライアンスの一貫、教育機関としてのインフラと考えるべきだということ。
  - ・「合理的配慮」の考え方。
  - ・障害学生数が増加傾向である事は初めて知りました。京都大学様の合理的配慮の実状は、今後モデルになるのではないかと感じました。
  - ・“読書バリアフリー法”について知らなかったもので、知ることができよかったです。
  - ・reasonable accommodation 合理的配慮 マラケシュ条件
  - ・合理的配慮についてよくわかりました。また、様々な読書補助具や情報支援機器があることを知り、参考になりました。
  - ・情報アクセシビリティの向上は、合理的配慮を的確に行うための環境の整備。
  - ・どういう情報源にあたって勉強すればいいかわかった。
  - ・合理的配慮の認識がわかりやすかった。権利保障への対応の重要性の再認識。
  - ・合理的配慮という言葉の意味について、よくわかった。
  - ・できることから行っていきたいと思います。読書バリア法を予算どりで活用していきたいです。大学を超えた部分をどうしていくかは、他の協力が大切になってくる。
- (以上、原文まま)

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・村田先生の授業内容について時間があれば伺いたかったです。
- ・申請はないが障がいがあると思われる学生への対応はどのようにしたらよいのか。特に、学習の理解力が低いと思われる学生に説明して理解を求めたいとき。(具体的でなくてすみません)
- ・大学間で格差がありそう。(予算などの都合で)また、それを是正する方法や、実例はあるか。
- ・合理的配慮を実施するうえでの経費と、対応可能な配慮をどこに設定すべきか。
- ・※学生支援の体制を、もっと知れたかった。⇒質問でのところで少し触れてもらえてよかったです。
- ・障がいと障害は区別されているのか。また、区別されるべきなのか？
- ・発達障害をもつ学生への読書バリアフリーに関する支援の実際。
- ・どのようなトラブルが実際にあるのか、といった点。
- ・村田先生:2007年に署名した障害者権利条約を、2014年に批准となったのは、国内法整備にそれだけ時間がかかったということなのか。
- ・評価基準を変えるのではなく、手段や方法を工夫してもらうための理解をどう得ていけば良いか？。
- ・差別的発言・行為をしたり配慮願いがだされても気にしないような教授にどう対応するべきか、知れたかった。
- ・法律の言葉はやはり分かりにくいと思いました。

(以上、原文まま)

**3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**

- ・「障害」には様々な種類があること。一方的な支援ではなく、対話が重要であること。
- ・今年度初めて、電動車椅子の学生を1名迎えました。小さな学校ですので支援を専門とする組織はなく、教職員混ぜた支援チームで対応しています。
- ・自大学の学生課に障がいのある学生をサポートするための担当部門や、学生相談室がありカウンセラーが常駐。学生が学生をサポートするためのグループもあり、研修を受けてサポートしている。
- ・学生サポートスタッフのトレーニング。
- ・※2のような、もっと具体的なやりとりの会(回)があると嬉しいです。
- ・特別支援教育専門の教員から SD として研修会が開かれている。全教職員が参加できているものではないが、、、。担当部局からの報告などもあれば良いと思っているが、そのような時間が取れないのが現実である。他大学の実施状況や方法を知りたい。
- ・学生支援課ふれあいの環の「チャレンジド・サポートのみり」が、千葉大学のバリアフリーマップを作成しました。全学で使って頂きたいです。
- ・かつて、ILL で墨字本を提供し、提供先図書館で視覚障害者サービスに提供というケースがありました。立命館のケースで同様のことが記されていましたが、このようなこともつみかさねていくことを大切になるのだろうと考えました。
- ・配慮願いをだしても受けつけない教授にどう対応しているか知りたい。
- ・ハード面、ソフト面の双方でいろいろと取り組むことが必要だと思います。(お金と人とエネルギーが大切です。)

(以上、原文まま)

**4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。**

- ・大変貴重なお話でした。ありがとうございました。
- ・大学へのハードルを高く感じている高校生にもオープンカレッジなどでの相談窓口はとても大切と思いました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。また内容がわかりやすくとまっていて、ありがたいと思いました。
- ・様々な具体的なお話がきけて参考になりました。
- ・貴重なお話ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。本学でもしくみの部分から検討しなければいけないことが多いと思っています。専門の窓口(組織)があるといいのではないかと考えています。
- ・お忙しいなか、貴重なお話ありがとうございました。資料も豊富でわかりやすかったです。
- ・貴重な資料をありがとうございました。
- ・講師の先生は様々にコーディネーターや支援の経験があると思いますので、そのような具体的事例などつっこんだ内容を期待していました。少し基礎的すぎると感じました。基礎編であれば、その旨の情報をもらえるとありがたい気がします。
- ・障がい／害について、これだけじっくり話を聞けることはなかったので、貴重な機会でした。
- ・何となく分かっているつもりになっていた言葉の定義がよく分かりました。
- ・個々の学生に対して、どのように接したらよいかの事例紹介があればありがたい。(教員なので授業のやり方の変更方法の事例や成績評価の方法など)
- ・知見や情報が充実し、両講師の話し方も非常にわかりやすいです。しかし、割当て時間が短く、その為に省略された内容があったのは残念です。

(次ページに続く)

